第３章　参加を呼び込む

自治町会活動への参加人数の低下に関する悩み

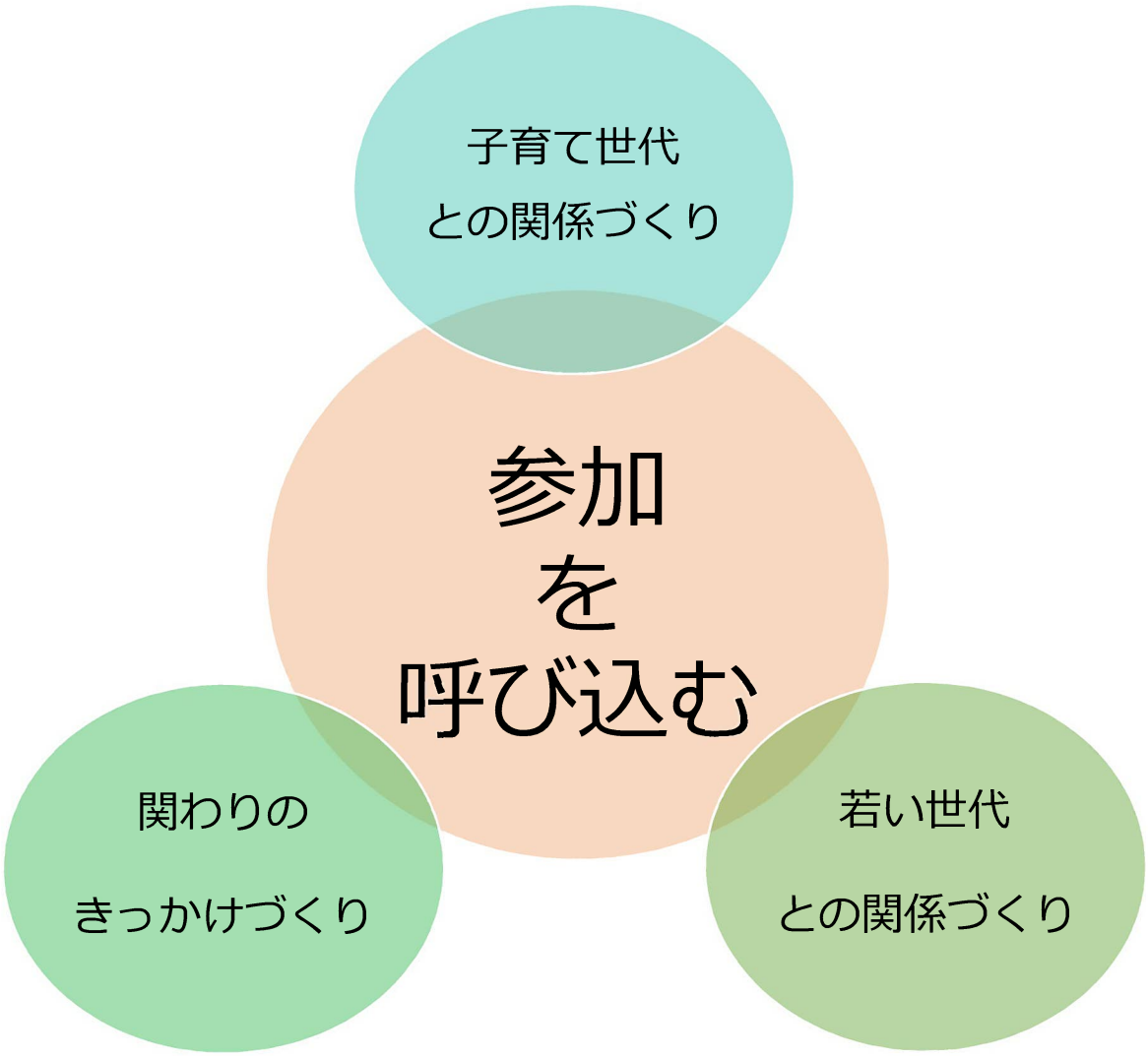
▷　区域に住む若い世代が少なく、単独町会でイベントを開催できない。

▷　行事では人が集まるが、運営や活動への参加につながらない。

▷　区域の住民自体が少なく、活動が立ち行かない。

ヒント

地域の商店や団体、外部サポーターと協力したり、趣味や得意分野を活かして関わってくれる人とつながりを持つことで、活動の幅が広がり多様な参加を呼び込むことができる。



子育て世代との関係づくり

働きながら子育てする世代がちょっとした時間で参加できるイベントなどの実施をとおして、活動への参加を呼び込むことができるのでは？

事　例　太鼓の成果発表会の実施（水元地区・水元中之橋町会）

コロナの影響により盆踊りを中止としたが、子どもたちが太鼓を懸命に練習する姿をみて、太鼓の成果発表会を実施した。

ポイント　「子どもたちのために」の視点で企画・実施する。

- ▶　従来のやり方に捉われず、コロナの状況に合わせて実施した。
- ▶　マスク着用、飲食禁止など、感染防止対策を行い、明るい時間帯での実施とした。
- ▶　なるべく労力をかけないために、ビールケースの上にコンパネを並べて簡易的なステージを設営した。

事　例　スーパーと連携した子どもお楽しみ袋（金町地区・東金町中央自治会）

「コロナで何もしないのはよくない」と役員会で話し合って、地元のスーパーと連携して、子どもお楽しみ袋の配布を実施した。

ポイント　事業者と協働したミニ行事を試み、会員に自治会費を還元した。

- ▶　コロナ前に実施していたサンマまつりの予算を超えない範囲で企画した。
- ▶　コロナ禍だからこそ地域の中で子どもが楽しめる場をつくった。
- ▶　お楽しみ袋の配布に合わせて、ガチャガチャゲームを実施した。
- ▶　次の取組につなげるため、来場者アンケートをとった。

事　例　縁側を活用した「だがし横丁」（港区・高輪二本榎町会）

新しいマンションに住む若い世代が、町会会館の縁側で「だがし横丁」を企画・実施した。コロナ禍でも出会いのきっかけをつくった。

ポイント　若い世代が町会会館の縁側に着目し、活動に馴染みのない人も、ちょっとした時間で楽しむことができる場をつくった。

- ▶　若い世代の目線で、町会会館を「縁を結ぶ」場とした。
- ▶　当日のみのお手伝いさんを募集した。
- ▶　参加者と連絡先を交換し、行事後もつながりを維持することを試みた。
- ▶　こじんまりの開催でも回数を重ねて、顔の見える関係づくりにつなげた。

問検委員の地元での取組

【東四つ木地区・渋江東町会】

マンション住民を納涼会に誘って関係づくりをしている。10 年先の担い手候補を見据え、子ども会のイベントを大切にしている。

【新小岩北地区・アーバンライフ東新小岩三丁目自治会】

学校の新入生がいる世帯にちょっとしたお祝いを渡して顔見知りになるきっかけとしている。コロナ禍で難しい面もあるが、積極的な若い人もいるので、まずは顔見知りになることを大切にしている。

事　例　外部支援を受けての「移動式あそび場」（千代田区神田淡路町）

神田淡路町の高層マンションの公開空地では、エリアマネジメント組織(※)が、イベントプロデューサーの「つむぎやさん」と連携し、学生や若い力を活用してあそび場を展開している。

ポイント　外部の視点を入れることで活動の活性化につなげる。

▶　防災×遊び、花植え×植生学習など、防災やまちの美化などの活動に遊びの要素をプラスする。

▶　ＮＰＯ法人や専門的な活動をしている個人と連携して事業を実施することで、活動をより充実したものにする。

▶　専門的な知見やアイデアが加わり、活動の裾野を広げられる。

（※）　一般社団法人淡路エリアマネジメント
神田淡路町の再開発を契機に設立されたまちづくり組織で、住民や働く人、学生など様々な人が交流する場をつくり、コミュニティを育むことを目的としている。

◀つむぎやさん
https://www.tumugiyasan.com/
全国を移動式あそび場カーで走る！

参考資料　P.31　葛飾区のＮＰＯ法人

問検委員の地元での取組

【奥戸地区・奥戸町会】

盆踊りを高齢者施設で開催できなくなったため、幼稚園に変更したところ、親御さんなどの参加につながった。地域にこんなにも若い世代がいるのかと驚くほどで、イベントの開催場所もポイントになると感じた。

【高砂地区・高砂一丁目町会】

夏のパトロールに参加した子どもに、町会で感謝状を贈呈している。子どもたちも「良いことをして感謝された」と笑顔になる。

若い世代との関係づくり

学生や社会人など地域に縁がある人に、得意分野で緩やかに関わってもらうことで、若い世代とのつながりが少しずつ広がっていくのでは？

事　例　「ＫＷ3 Summer Fes」（亀有地区・亀有西三自治会）

亀有駅前の公園で音楽好きな人などを巻き込んでフェスを実施し、多くの来場を呼び込み、賑わいの場をつくっている。

ポイント　自治町会活動に限らず横断的なつながりを大切にする。

- ▶　亀有に住んでいなくてもイベントが好きな人を、活動の担い手として積極的に受け入れている。
- ▶　得意分野をいかして楽しみながら運営に携わることで、負担感を軽減している。
- ▶　協賛団体の協力を得て経費を削減している。
- ▶　人目を惹く告知をするため、「こち亀」のイラストを使用する許可を得て、ホームページやチラシでＰＲしている。

問検委員の地元での取組

【東四つ木地区・渋江東町会】

賃貸ワンルームに住む単身の若者などを対象としたイベントの企画を考えている。イベントへの参加をきっかけに、活動の担い手を増やしていけたらよい。

関わりの
きっかけづくり

住民の関心が高い防災や防犯の活動をとおして、これまで活動に参加していなかった人を取り込むきっかけをつくることができるのでは？

事　例　ファイヤーマドンナ 45（四つ木地区・四つ木五丁目町会）

「女性の方にも活動に参加してほしい」「女性でできることはないか」という思いから、女性のみの防災組織を結成した。

ポイント　月１回程度の訓練を実施し、楽しみながら活動している。

▶　防災資器材は、助成制度を活用して整備した。

▶　ジャンパーをつくって連帯感を醸成した。

▶　力が強くなくても扱いやすいスタンドパイプを使って訓練している。

問検委員の地元での取組

【奥戸地区・奥戸町会】

黄色いタオルを出す安否確認の訓練を行った。参加率が高く、防災に対しては住民の関心が高いことが分かった。

【東四つ木地区・渋江東町会】

地域にいる時間が長い退職者や自営業の方に対して、一人ひとり地道にアプローチしている。

問検委員の地元での取組

【奥戸地区・奥戸町会】

子ども会・太鼓の会で活動している若手に、こまめに声掛けを行った結果、若手３人が加わった。理事会を平日から土曜日の開催に変更し、サラリーマンの参加を増やした。

【水元地区・水元中之橋町会】

子ども会を卒業しても、中学・高校までは育児と仕事で難しいので、落ち着いた時期を見計らって町会活動に誘っている。

【新宿地区・協栄自治会】

地域に 40 代が集まるグループがあり、「新宿地域応援隊」として単発ボランティアを募ろうと検討している。年間の行事を書き出して参加できる行事にエントリーしてもらう取組を考えている。

札幌市の「町内会活動のヒント等の冊子」～若い人を巻き込む町内会づくり読本～

若い世代に積極的に働きかけながら、地域活動に巻き込んでいくために、20～40 代の若い世代の想いや考え方、アイデアなどをまとめた冊子を発行している。

札幌市では、このほかに「町内会への加入声かけ参考書」や「町内会の電子回覧板導入の手引き」などをホームページで公開している。

町内会活動のヒント等の冊子▶

https://www.city.sapporo.jp/shimin/shinko/chounaikai/hint/hinttou_top.html